

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

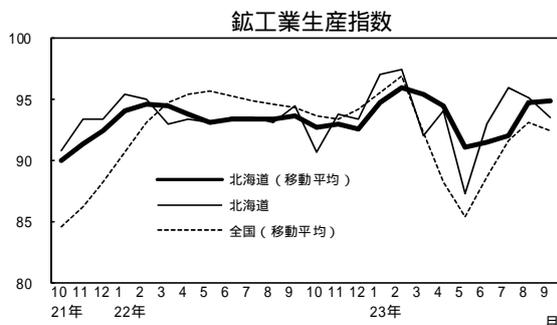
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年8月)	今回(平成23年11月)	
景況判断	東日本大震災の影響が残るものの、 持ち直しの動き	持ち直しの動き	
観光	東日本大震災の影響が残るものの、 持ち直しの動き	持ち直しの動き	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	東日本大震災の影響により、厳しい 状況にあるものの、持ち直しの動き	厳しい状況にあるものの、持ち直し の動き	

#### 1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。  
7～9月期は、生乳生産は、乳製品向けで減少したため、総量では969,206tと前年比1.7%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいかで前年を下回っている。
- (2) 鉱工業生産は、持ち直しの動きがみられる。  
食料品は、代替生産が落ち着いたことや8月後半からの気温低下によるビールの需要減退により生産が減少した。パルプ・紙は、引き続き減産傾向が続いている。鉄鋼は、震災からの復旧により、自動車向け鉄鋼などの生産が増加した。電気機械は、震災の復旧から自動車向けカーナビ部品やスマートフォン向け部品等で増加した。金属製品は、工場の新設・建て替え等により、鉄骨の生産が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
食料品	23.9	3.1	2.1	2.4	0.6
パルプ・紙	10.7	0.6	4.8	4.9	4.9
鉄鋼	8.6	7.4	0.7	6.1	1.5
電気機械	8.4	21.4	3.2	2.9	22.8
金属製品	8.0	23.5	15.4	12.4	0.5
鉱工業	100.0	4.2	3.7	3.9	3.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

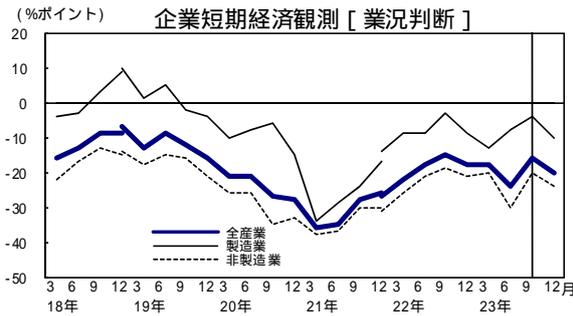
2. 7～9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

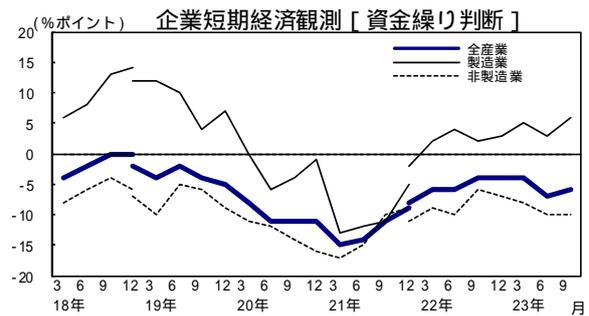
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

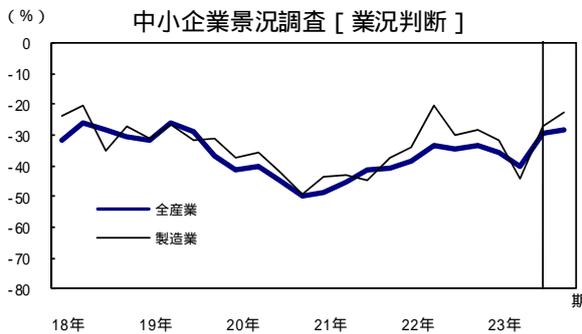
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

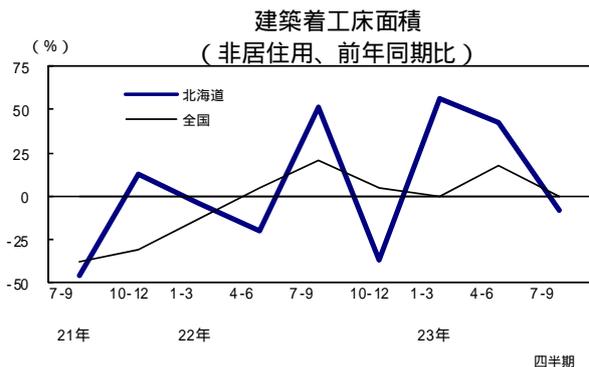
「建物の建築については、一時期と比較して上向いているようにみられるが、土地の取引は停滞したままである(司法書士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

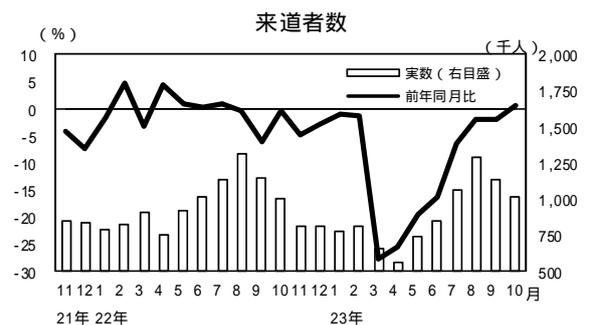
	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	30.0	7.1( 3.0)
製造業	51.9	34.5( 3.2)
非製造業	19.8	9.1( 2.9)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、持ち直しの動きがみられる。

来道者数は、7月は全体的に回復傾向がみられるものの、依然として前年比で大きくマイナスとなった。8月は本州からの空の便は好調で、鉄道でも盆期間以降で好調だったが、全体では前年を下回った。9月はJRで企画切符が発売されたことと、2度の3連休があったことから鉄道では好調に推移したが、前年を下回った。10月は鉄道が引き続き好調で、全体でも前年を上回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

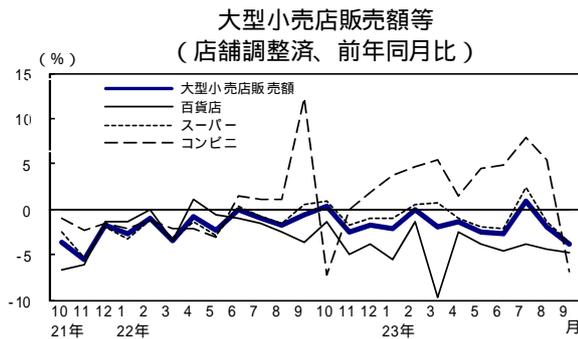
大型小売店販売額は、前年同期比で1.6%減、前期比で0.5%減となった。

百貨店は、7月は飲食料品、衣料品ともに好調に推移したため、前年比低下幅が縮小した。8月と9月は、8月後半からの天候不順により来客数が減少したことや秋物衣料が動かなくなった等により前年比低下幅が拡大した。

スーパーは、7月は飲食料品を中心に好調だったが、8月後半以降百貨店と同様に、来客数の減少等がみられたため、前年を下回った。

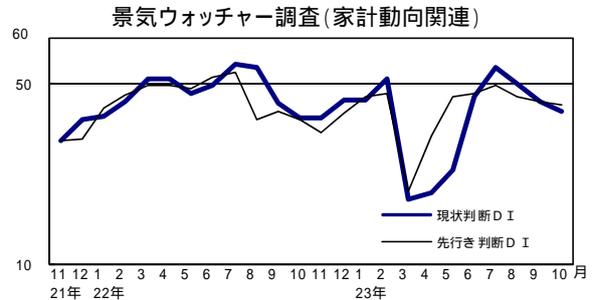
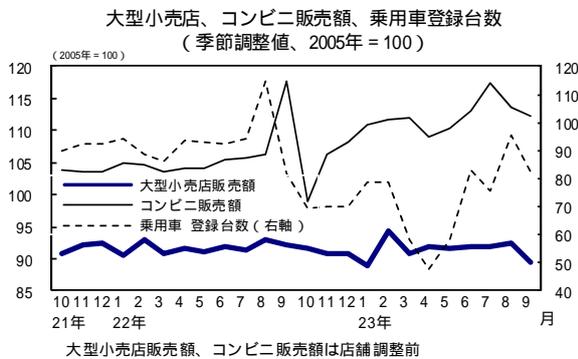
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「テレビやDVDレコーダ以外の家電商品は前年と同程度売れているが、テレビが売れていない分、売上の目標金額を下回っている(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.3	1.4	2.2	1.6
百貨店(*1)	3.4	5.8	3.6	4.2
スーパー(*1)	0.6	0.1	1.7	0.8
大型小売店(*2)	1.0	0.5	0.5	0.0
(季節調整値)(*3)	( 1.1)	( 0.2)	( 0.5)	( 0.5)
乗用車(*4)	23.8	23.5	31.2	11.8
(季節調整値)(*4)	( 27.8)	( 2.9)	( 12.3)	( 34.1)

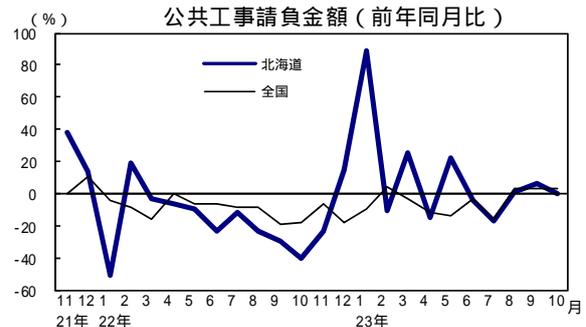
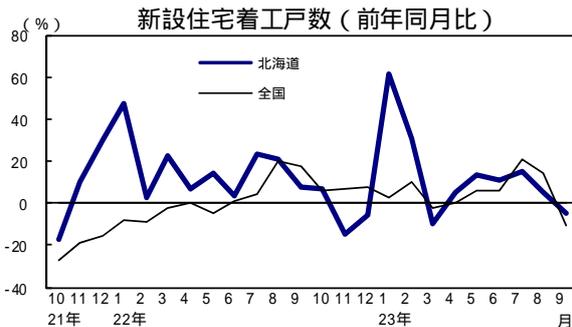
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)  
 2. 店舗調整前、前年同期比(%)  
 3. 店舗調整前、前期比(%)  
 4. 乗用車は新規登録・届出台数  
 (上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、貸家と持家が前年を上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計でみると前年度を下回っている。

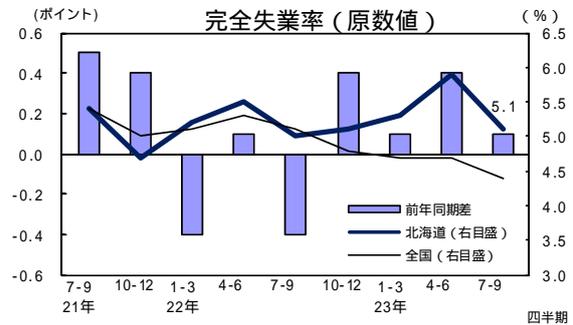
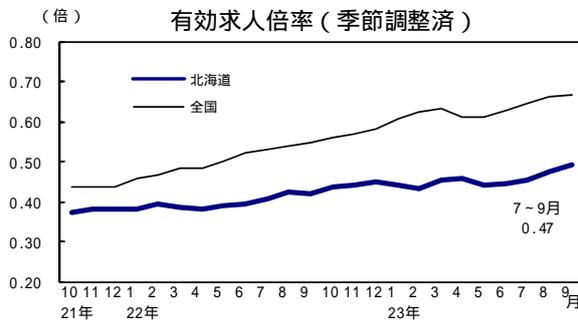


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準である。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

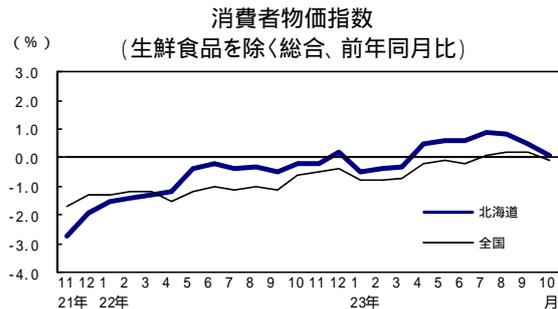
「求人数は増加傾向にあるが、求人開拓の事業所訪問の場において、景気回復の話が聞かれないため、厳しい状況に変わりはない (職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数は減少し、負債件数は増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数	107	125	123	104	31
(前年比)	7.8	14.7	8.8	6.3	3.3
負債総額	241	290	356	287	30
(前年比)	39.4	16.3	17.0	44.8	30.9



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・宿泊客の稼働が上昇している。例年10月に入ると減少傾向になるが、今年10月まで高稼働が続いている。特に国内からの団体観光客の入込が目立っている (高級レストラン)。

<先行き>

・国内客はますます回復しており、残すは海外客であるが、12月から韓国との国際定期便が復活することから、アジアからの集客が期待できる (観光名所)。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

